

# メディアワールド

横浜市立小学校  
情報・視聴覚教育主任様

横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育研究部会員様

平成26年度 11月号  
(7月研究会)

【発行】  
横浜市小学校教育研究会  
情報・視聴覚教育部会  
会長 渡邊 和也



## 「思考の可視化とタブレット端末活用」

放送大学教授 中川一史先生

「思考の可視化とタブレット端末活用」について放送大学教授中川一史先生に御講演をしていただきました。全国各地の学校の現状をご覧になっている先生から、まずお話があったのが、タブレット端末について、「他の市町村では、入ってからの対応が多く、本末転倒の状況になっている場所もある。横浜市においてこのように導入前に様々な検討をしている意義は大きい。」ということでした。タブレット導入にあたっては様々なケースが考えられます。【教師分の導入】【グループ数分の導入】【1クラス分の導入】【複数クラス分の導入】【全校児童生徒数分の導入(公費)(私費)】と様々な方法が考えられる中で、それぞれのメリット

／デメリットについて紹介していただきました。また、他の市町村で導入が始まり、それぞれが抱えている課題などについても知ることができました。ただ、いろいろな課題がある中においても、現在のタブレット端末導入の波が止まることは考えにくく、いかに効果的に導入していくかが非常に大切だということを考える機会になりました。中でも、「One of them の ICT を意識しよう」という言葉がこれからのキーワードになってくるのだと感じました。他の教材・教具の方がよくないか？(選択)他の教材・教具との最適な組み合わせは？(融合)児童・生徒の慣れはどの程度か？(熟達)など、タブレットありきではな

く、タブレットとこれまでの学習ツールを上手に使い分け、より効果的に子どもの思考を促し、可視化するツールとしてタブレット活用を推進していく必要があります。これまでの板書の良さや紙媒体の良さを生かしながら、アナログのものから、子ども自身がどのツールを使うか「最適化」を考えて使えるようになると、タブレット端末の活用が大きな効果をもたらすのではないのでしょうか。



【編集】  
紀要・広報委員会 武井 三也  
〈青葉区 鴨志田緑小学校〉